

5 病院事業

(1) 事業数及び経営規模

平成22年度における県内の市町村等が経営する病院事業の数は前年度と同数の18事業で、その病院数は前年度と同数の29病院となっている。

病院を経営主体別にみると、市営が18病院、町営が7病院、一部事務組合営が4病院となっている。

【市営：7事業18病院】

仙台市、石巻市（3病院）、塩竈市、気仙沼市（2病院）、登米市（4病院）、栗原市（3病院）、大崎市（4病院）

【町営：7事業7病院】

蔵王町、川崎町、丸森町、涌谷町、美里町、女川町、南三陸町

【一部事務組合営：4事業4病院】

白石市外二町組合、黒川地域行政事務組合、加美郡保健医療福祉行政事務組合、大河原町外1市2町保健医療組合

経営規模別にみると、300床以上は前年度と同数の7病院、200床以上300床未満も前年度と同数の1病院、100床以上200床未満も前年度と同数の6病院、50床以上100床未満は前年度に比べ1病院減少し9病院、50床未満は前年度に比べ1病院増加し6病院となっている。このうち、300床以上の病院は、仙台市立病院（525床）、大崎市民病院本院（456床）、気仙沼市立病院（451床）、公立刈田総合病院（308床）、登米市立佐沼病院（300床）、栗原市立栗原中央病院（300床）及びみやぎ県南中核病院（300床）で、いずれも地域の基幹病院として機能している。

なお、病院種別では、すべて一般病院に該当しており、このうち救急告示病院は、前年度と同数の27病院（29病院のうち、気仙沼市立本吉病院及び登米市立よねやま病院以外の病院）となっている。

また、地方公営企業法の規定の全部を適用している事業は前年度に比べ2事業増加し6事業（仙台市、登米市、栗原市、大崎市に加え、平成22年4月から塩竈市及び涌谷町が移行）、一部を適用している事業は前年度に比べ2事業減少し11事業、指定管理者制度（代行制）導入は前年度と同数の1事業（黒川地域行政事務組合）となっている。

第1表 経営主体別・経営規模別の状況

（単位：病院、事業、％）

経営規模	市 営		町 営		一 組 営		計		構 成 比	
	病床数	病床数	病床数	病床数	病床数	病床数	病床数	病床数	病床数	
300床以上	5	2,032	0	0	2	608	7	2,640	24.1	57.5
200床以上300床未満	1	206	0	0	0	0	1	206	3.4	4.5
100床以上200床未満	3	411	2	247	1	170	6	828	20.7	18.0
50床以上100床未満	4	297	4	298	1	90	9	685	31.0	14.9
50床未満	5	192	1	38	0	0	6	230	20.7	5.0
計（病院）	18	3,138	7	583	4	868	29	4,589	100.0	100.0
経営形態	全部適用	5	1				6		33.3	
	一部適用	2	6			3	11		61.1	
	指定管理者（代行制）					1	1		5.6	
	計（事業）	7	7			4	18		100.0	

（注）病院数は、年度末現在の数である。

(2) 業務の状況

病床数は4,589床で、前年度に比べ120床(2.5%)減少している。これは、公立病院改革プランに基づき、大崎市民病院岩出山分院が55床、大崎市民病院鳴子温泉分院が40床、石巻市立牡鹿病院が15床、大崎市民病院本院が10床の病床数の見直し(再編による減床)を行ったことによるものである。

患者数は、年延入院患者数が1,233千人で、前年度に比べ45千人(3.5%)減少し、年延外来患者数は2,177千人で、前年度に比べ94千人(4.1%)減少している。また、1病院当たりの1日平均入院患者数は121人で、前年度と同数であり、1病院当たりの1日平均外来患者数は313人で、前年度に比べ3人(0.9%)減少している。

病床利用率は75.1%で、前年度に比べ0.7ポイント上昇している。このうち、一般病床利用率は75.5%で、前年度に比べ0.3ポイント上昇している。

職員数は4,991人で、前年度に比べ99人(2.0%)増加している。

第2表 病床数及び患者数の推移

年 度		18	19	20	21	22	対前年度比較	
							b - a	(c/a)
項 目	A	5,120	4,863	4,773	4,709	4,589	▲120	▲2.5
年 延 患 者 数 (千人)	入 院	1,429	1,386	1,318	1,278	1,233	▲45	▲3.5
	外 来	2,547	2,406	2,303	2,271	2,177	▲94	▲4.1
一 日 平 均 患 者 数 (人/1病院)	入 院	126	126	125	121	121	0	0.0
	外 来	328	320	319	316	313	▲3	▲0.9
病 床 利 用 率 (%)		(78.4)	(79.1)	(76.0)	(75.2)	(75.5)	(0.3)	—
		77.0	77.9	75.6	74.4	75.1	0.7	—
職 員 数 B		4,984	5,018	4,938	4,892	4,991	99	2.0
一床当たり職員数 B/A		0.97	1.03	1.03	1.04	1.09	0.05	—

(注)1 病床利用率欄の()内は、一般病床分である。

2 平成22年度の年延患者数、一日平均患者数及び病床利用率は、東日本大震災の影響により算出できない南三陸町の数値を除いている。

(3) 経営状況

ア 損益収支の状況

病院事業の経常収益は829億42百万円、経常費用は853億18百万円となっており、この結果、経常収支比率が97.2%となり、前年度に比べ0.7ポイント上昇している。

経常利益が生じた事業は18事業のうち4事業(病院数では29病院のうち9病院)で、前年に比べ1事業増加(1病院増加)であり、その額は7億14百万円で、前年度に比べ1億41百万円(24.7%)増加している。

経常損失が生じた事業は14事業(20病院)で、前年度に比べ1事業減少(1病院減少)であり、その額は30億90百万円で、前年度に比べ4億25百万円(12.1%)減少している。

経常利益に特別利益を加えた総収益は836億81百万円、経常費用に特別損失を加えた総費用は864億19百万円となっており、この結果、総収支比率は96.8%で、前年度に比べ0.2ポイント低下している。

経常収支に特別損益を加減した純損益をみると、27億38百万円の純損失が生じており、前年度に比べ2億59百万円（10.5%）増加している。

累積欠損金を有する事業は18事業（28病院）で、前年度と同じ事業数（1病院増加）であり、その額は691億24百万円で、前年度に比べ27億37百万円（4.1%）増加している。

不良債務を有する事業は3事業で、前年度と同じ事業数であるが、その額は12億97百万円で、前年度に比べ3億39百万円（20.7%）減少している。

第3表 病院事業の損益収支状況の推移

（単位：百万円、%）

項目	年 度	18	19	20	21	22	対前年度比較	
							b - a	(c/a)
					a	b	c	×100
総 収 益	A	81,697	80,297	79,658	81,739	83,681	1,942	2.4
経 常 収 益	B	79,092	79,687	78,977	81,007	82,942	1,935	2.4
医 業 収 益	C	71,396	71,881	70,064	71,704	73,698	1,994	2.8
うち料金収入		65,614	66,097	63,809	64,771	66,908	2,137	3.3
うち受託工事収益	D	0	0	0	0	0	0	—
特 別 利 益		2,606	610	682	732	739	7	1.0
総 費 用	E	87,544	86,056	83,796	84,217	86,419	2,202	2.6
経 常 費 用	F	87,042	85,596	83,348	83,949	85,318	1,369	1.6
医 業 費 用		82,683	81,452	79,429	80,204	81,642	1,438	1.8
うち職員給与費		38,350	37,768	37,378	37,514	38,098	584	1.6
支 払 利 息		2,302	2,151	1,971	1,807	1,714	▲93	▲5.1
特 別 損 失		502	460	448	268	1,101	833	310.8
経 常 損 益		▲7,951	▲5,910	▲4,371	▲2,942	▲2,376	566	19.2
経 常 利 益		405	611	355	573	714	141	24.7
経 常 損 失	G	8,356	6,520	4,727	3,515	3,090	▲425	▲12.1
純 損 益		▲5,847	▲5,759	▲4,138	▲2,478	▲2,738	▲259	▲10.5
純 利 益		1,275	504	504	821	931	110	13.5
純 損 失		7,122	6,263	4,641	3,299	3,669	370	11.2
累 積 欠 損 金	H	55,959	59,770	63,908	66,387	69,124	2,737	4.1
不 良 債 務	I	4,209	4,918	1,972	1,636	1,297	▲339	▲20.7
経 常 収 支 比 率 B/F		90.9	93.1	94.8	96.5	97.2	0.7	—
総 収 支 比 率 A/E		93.3	93.3	95.1	97.1	96.8	▲0.2	—
医業収益 に対する 割合	経 常 損 失 比 率 G/(C-D)	11.7	9.1	6.7	4.9	4.2	▲0.7	—
	累 積 欠 損 金 比 率 H/(C-D)	78.4	83.2	91.2	92.6	93.8	1.2	—
	不 良 債 務 比 率 I/(C-D)	5.9	6.8	2.8	2.3	1.8	▲0.5	—
総 事 業 数（営業中）	J	20	19	19	18	18	0	0.0
経常損失を生じた事業数	K	17	17	15	15	14	▲1	▲6.7
累積欠損金を有する事業数	L	19	18	18	18	18	0	0.0
不良債務を有する事業数	M	4	3	3	3	3	0	0.0
総事業数 (営業中) に対する 割合	経常損失を生じた事業数 K/J	85.0	89.5	78.9	83.3	77.8	▲5.6	—
	累積欠損金を有する事業数 L/J	95.0	94.7	94.7	100.0	100.0	0.0	—
	不良債務を有する事業数 M/J	20.0	15.8	15.8	16.7	16.7	0.0	—

（注）不良債務＝流動負債－（流動資産－翌年度へ繰り越される支出の財源充当額）

イ 資本収支の状況

病院事業の資本的支出は9億1,570百万円で、前年度に比べ5億2,100百万円（6.0%）増加している。このうち、建設改良費は3億8,500百万円で、前年度に比べ3億3,400百万円（9.5%）増加しており、企業債償還金は5億9,000百万円で、前年度に比べ1億5,200百万円（3.1%）増加している。

資本的支出の財源は、外部資金が他会計出資金や企業債等の7億7,200百万円であり、内部資金（資本的収入が資本的支出に不足する分の補てん財源）が損益勘定留保資金等の1億7,500百万円である。

なお、資本的支出に占める建設改良費の割合は42.1%で、前年度に比べ1.4ポイント上昇しており、建設改良のための企業債償還金の割合は51.0%で、前年度に比べ1.4ポイント低下している。

第4表 病院事業の資本収支状況の推移

（単位：百万円、%）

項 目		年 度					対前年度比較	
		18	19	20	21 a	22 b	b - a c	(c/a) ×100
資本的支出	建設改良費	2,687	2,059	3,143	3,516	3,850	334	9.5
	企業債償還金	6,031	7,029	5,086	4,939	5,090	152	3.1
	うち建設改良費のためのもの	6,031	5,181	4,496	4,522	4,670	149	3.3
	その他の	615	71	117	181	217	36	19.6
	計	9,333	9,159	8,346	8,636	9,157	521	6.0
同 上 財 源	内部資金	1,811	1,333	1,475	1,753	1,575	▲178	▲10.2
	外部資金	7,522	7,826	6,871	6,883	7,572	689	10.0
	企業債	1,941	3,212	5,854	1,846	2,328	482	26.1
	うち建設改良費のためのもの	1,941	1,364	2,285	1,846	2,328	482	26.1
	他会計出資金	4,581	4,360	3,506	3,931	3,993	62	1.6
	他会計負担金	267	90	200	735	320	▲415	▲56.5
	他会計借入金	350	0	0	0	0	0	—
	他会計補助金	63	57	120	152	148	▲4	▲2.8
	国・県補助金	315	112	118	126	975	849	673.7
	繰越事業財源（▲）	0	0	0	16	190	174	1,083.1
計	9,333	9,159	8,346	8,636	9,147	511	5.9	
財源不足額		0	0	0	0	10	10	皆増
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額		0	0	0	0	10	10	皆増
実質財源不足額		0	0	0	0	0	0	—

（注）1 内部資金＝補てん財源合計額－前年度からの繰越工事資金＋固定資産売却代金

2 外部資金＝資本的支出額－（内部資金＋財源不足額）

ウ 料金収入の状況

料金収入（入院・外来収益）は669億8百万円で、前年度に比べ21億37百万円（3.3%）増加している。

患者1人1日当たりの診療収入は、入院収益が35,674円で、前年度に比べ2,039円（6.1%）増加しており、外来収益が10,021円で433円（4.5%）増加している。

職員1人1日当たりの診療収入は、医師1人当たりでは294,630円で4,273円（1.5%）増加しており、看護部門1人当たりでは54,081円で1,850円（3.5%）増加している。

第5表 料金収入の状況の推移

（単位：円、%）

年 度	18	19	20	21	22	対前年度比較		
						b - a	(c/a)	
項 目				a	b	c	×100	
料 金 収 入（百万円）	65,614	66,097	63,809	64,771	66,908	2,137	3.3	
内 入院収益（百万円）	43,833	44,356	42,933	42,998	44,772	1,774	4.1	
訳 外来収益（百万円）	21,781	21,740	20,876	21,773	22,136	363	1.7	
患者1人1日 当たり診療 収 入	入 院	30,669	31,998	32,573	33,635	35,674	2,039	6.1
	外 来	8,552	9,034	9,068	9,588	10,021	433	4.5
職員1人1日 当たり診療 収 入	医 師	290,652	298,379	291,497	290,357	294,630	4,273	1.5
	看護部門	54,437	53,568	51,994	52,231	54,081	1,850	3.5

（注）平成22年度の患者1人1日当たり診療収入及び職員1人1日当たり診療収入は、東日本大震災の影響により算出できない南三陸町の数値を除いている。

エ 他会計繰入金の状況

他会計からの繰入金（借入金を含む。）は、収益的収入（特別利益を含む。）に計上される繰入金が127億90百万円、資本的収入に計上される繰入金が44億61百万円、合わせて172億51百万円で、前年度に比べ2億73百万円（1.6%）減少している。

収益的収入に計上される他会計からの繰入金の総収益に対する割合は15.3%で、前年度に比べ0.3ポイント低下しており、資本的収入に計上される他会計からの繰入金の資本的収入合計に対する割合は58.4%で、前年度に比べ11.6ポイント低下している。

病床1床当たりの他会計からの繰入額は375万9千円で、前年度に比べ3万8千円（1.0%）増加している。

第6表 他会計からの繰入金の状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目		年 度					対前年度比較		
		18	19	20	21 a	22 b	b - a c	(c/a) ×100	
他 会 計 か ら の 繰 入 金	収 益 的 収 入 A	12,003	10,273	11,946	12,705	12,790	85	0.7	
	うち	負 担 金	8,286	8,413	9,386	9,932	10,196	263	2.6
		補 助 金	1,334	1,399	2,047	2,151	1,965	▲186	▲8.6
		特 別 利 益	2,383	462	513	622	630	7	1.2
	資 本 的 収 入 B	5,262	4,507	3,826	4,818	4,461	▲357	▲7.4	
	うち	出 資 金	4,581	4,360	3,506	3,931	3,993	62	1.6
		負 担 金	267	90	200	735	320	▲415	▲56.5
		借 入 金	350	0	0	0	0	0	—
		補 助 金	63	57	120	152	148	▲4	▲2.8
	計 (A+B) C		17,265	14,780	15,772	17,523	17,251	▲273	▲1.6
総 収 益 D		81,697	80,297	79,658	81,739	83,681	1,942	2.4	
資 本 的 収 入 E		8,234	7,838	9,845	6,883	7,639	756	11.0	
繰 入 率	総収益に対する繰入率 A/D	14.7	12.8	15.0	15.5	15.3	▲0.3	—	
	資本的収入に対する繰入率 B/E	63.9	57.5	38.9	70.0	58.4	▲11.6	—	
一 床 当 た り	収 益 的 収 入 (千円)	2,344	2,112	2,503	2,698	2,787	89	3.3	
	資 本 的 収 入 (千円)	1,028	927	802	1,023	972	▲51	▲5.0	
	計 (千円)	3,372	3,039	3,305	3,721	3,759	38	1.0	

※ 一床当たり繰入金 = $\frac{\text{他会計繰入金}}{\text{年度末病床数}}$

オ 職員給与費の状況

職員1人当たり平均給与月額、医師が149万980円、看護師が44万5,861円、准看護師が48万7,603円、事務職員が51万7,860円、その他の職員が43万8,311円、全職員平均では55万8,043円で、前年度に比べ4,279円(0.8%)減少している。

第7表 職員別給与(平均給与月額)の状況の推移

(単位:円、%)

年 度 項 目	18	19	20	21 a	22 b	対前年度比較	
						b - a c	(c/a) ×100
医 師	1,480,980	1,487,236	1,502,660	1,508,101	1,490,980	▲17,121	▲1.1
看 護 師	460,463	456,534	457,286	450,509	445,861	▲4,648	▲1.0
准 看 護 師	511,199	516,009	517,511	503,378	487,603	▲15,775	▲3.1
事 務 職 員	509,698	518,375	514,617	506,612	517,860	11,248	2.2
そ の 他 職 員	467,159	467,868	464,615	450,415	438,311	▲12,104	▲2.7
全 職 員	566,529	566,010	566,672	562,322	558,043	▲4,279	▲0.8

(注)1 管理者及び臨時職員を除く。

2 平均給与月額=(基本給+手当)/年間延職員数

3 平成22年度は、東日本大震災の影響により算出できない南三陸町の数値を除いている。

カ 業務量の状況

職員1人当たりの患者数は699人で、前年度に比べ24人(3.3%)減少しており、職員1人当たりの料金収入は1,336万6千円で、前年度に比べ16万6千円(1.3%)増加している。

病床100床当たりの職員数は、医師が14.3人、看護部門職員が77.0人、全職員では125.1人で、前年度に比べ6.0人(5.0%)増加している。

第8表 職員業務量の状況の推移

年 度 項 目	18	19	20	21 a	22 b	対前年度比較		
						b - a c	(c/a) ×100(%)	
職員1人当たり患者数(人)	798	756	732	723	699	▲24	▲3.3	
職員1人当たり料金収入(千円)	13,165	13,172	12,904	13,200	13,366	166	1.3	
病 床 100 床 当 たり	医 師 (人)	12.9	13.0	13.2	13.7	14.3	0.6	4.4
	看 護 部 門 (人)	68.2	71.3	71.8	73.1	77.0	3.9	5.3
	全 職 員 (人)	109.5	113.4	115.6	119.1	125.1	6.0	5.0

(注) 平成22年度の職員1人当たり患者数は、東日本大震災の影響により算出できない南三陸町の数値を除いている。

キ 材料費の状況

薬品等の医療材料費は157億84百万円で、前年度に比べ3億31百万円（2.1%）増加している。これを料金収入に対する割合で見ると23.6%で、前年度に比べ0.3ポイント低下している。

医療材料費のうち、薬品費は89億58百万円で、前年度に比べ2億34百万円（2.7%）増加しており、患者1人当たりの薬品費は2,607円で、前年度に比べ149円（6.1%）増加している。

薬品使用効率は、投薬分が123.1%、注射分が85.4%、平均で99.9%となっており、前年度に比べ0.2ポイント上昇している。

第9表 料金収入に対する材料費の状況の推移

(単位:百万円、%)

年 度		18	19	20	21 a	22 b	対前年度比較		
							b - a c	(c/a) ×100	
項 目									
料 金 収 入		65,614	66,097	63,809	64,771	66,908	2,137	3.3	
医 療 材 料 費		16,627	16,521	15,075	15,453	15,784	331	2.1	
う ち	薬 品 費	9,592	9,390	8,491	8,724	8,958	234	2.7	
	そ の 他 材 料 費	7,035	7,130	6,584	6,729	6,826	97	1.4	
料金収入 に対する 割 合	医 療 材 料 費	25.3	25.0	23.6	23.9	23.6	▲0.3	—	
	う ち	薬 品 費	14.6	14.2	13.3	13.5	13.4	▲0.1	—
		そ の 他 材 料 費	10.7	10.8	10.3	10.4	10.2	▲0.2	—
患者1人当たり薬品費(円)		2,412	2,476	2,345	2,458	2,607	149	6.1	
薬品使用 効 率	投 薬	121.3	124.5	126.2	123.8	123.1	▲0.7	—	
	注 射	102.0	102.3	100.8	85.4	85.4	0.0	—	
	平 均	110.3	111.7	110.6	99.7	99.9	0.2	—	

(注)1 平成22年度の患者1人当たり薬品費は、東日本大震災の影響により算出できない南三陸町の数値を除いている。

2 平成22年度の薬品使用効率は、東日本大震災の影響により算出できない石巻市立病院、石巻市立雄勝病院及び気仙沼市立本吉病院の数値を除いている。